

○ 委嘱書の交付

1 開会

2 あいさつ

吉岡教育長

事務局自己紹介

3 会議事項

(1) 社会教育委員について(資料1・2)

事務局：

佐久市社会教育委員の活動について、概要をご説明いたします。

社会教育委員の職務については、社会教育法第17条に定められています。また、期待される社会教育委員の役割ですが、2年間の任期で何をするのか目標を定め、地域の声を吸い上げ、地域・人・行政をつなぐ存在でいていただくことが期待されています。一言で「社会教育」と言っても、社会教育の範囲は多岐にわたりますので、社会教育委員の皆さまにはそれぞれのフィールドで活躍していただきたいと思えます。

また、これまで、地域は学校を支える存在とされてきましたが、社会の変化とともに、地域は「学校を支える存在」から「協働するパートナー」として、地域も教育の主体へと変化することが求められています。家庭・学校・地域・行政がそれぞれの役割を担い、連携・協働することが期待されています。

では、佐久市の社会教育委員の活動について具体的にご説明します。令和3年度佐久市社会教育委員活動事業計画の黄色部分が、佐久市の社会教育委員会について、青の部分が佐久地区の社会教育委員連絡協議会・理事会、ピンクの部分が長野県連絡協議会・理事会、緑の部分が関東甲信越静及び全国の社会教育研究大会等の計画です。また、長野県生涯学習推進センターが主催する講座へも随時参加しています。このような研修や大会で得た知識や情報を各々の活動や地域へ持ち帰り、活動の幅を広げていただきたいと考えています。

こうした社会教育委員の活動の成果報告、活動の見える化を図るため、不定期に社会教育委員だより「そよかぜ」を発行しています。

また、市民の方の生涯学習活動の様子やニーズをお聞きし、これからの学習メニュー作りや、生涯学習推進事業の参考とするため、「生涯学習に関するアンケート」を実施してきました。地域の活動の実態を把握するための調査研究として継続していきたいと考えています。

## (2) 各自の活動報告と現在の課題について

事務局：

委員の皆さまの自己紹介を兼ねまして、現在活動されている内容や活動、地域の中で課題に感じていること等を紹介していただきます。

委員：

私は望月地区に住まいを移して5年になり、昨年から布施地区の公民館長を務めています。地区のシニアゴルフやグランドゴルフクラブでは、自分より年配の方々の非常に前向きでいきいきした姿にいつも元気をもらっています。また、畑を借りて50坪程の家庭菜園で成長・収穫の楽しみを味わっています。

活動・地域における課題ですが、コロナウイルス感染症のため、計画したイベントを開催することができません。また、高齢化の深刻化、各家族間や地域のコミュニケーションの減少を感じており、この状況を何とかせねばならないと考えています。

事務局：

ただ今の内容について、何か質問等はございますか。

委員：

地域の活気が薄れている、また、家族間のコミュニケーションが減少していることが課題とのことですが、この状況はコロナウイルス感染症の拡大が終焉すれば、感染拡大前の状況に戻るとお考えですか。

委員：

現在は、皆で集まり、会話を楽しみ、様々な情報交換ができる機会が無い状態ですので、感染拡大が治まれば多少は交流が戻るのではないかと思います。完全には戻らないと思います。

委員：

場づくりを絶やさないために、人数を制限し、野外で集会を開催している方もいます。工夫をして開催を続ければ、状況も少しは違うのではないかと思います。

委員：

地域の催しへの男性参加者が少ない傾向がありますが、性別関係なく、気楽に出て来られるような雰囲気づくりが必要だと思います。野外での交流会も良い例だなと思います。

委員：

囲碁や将棋、麻雀などの催しは男性にも人気があるようです。呼びかけ方や、何に興味があるのかを聞くのも大切かと思います。

---

委員：

5年ほど前から住んでいる地区の美化活動を継続しています。

課題に感じることは、活動をさらに発展させ、継続していかねばならないということです。コミュニティースクール等と協力し、子どもたちと関わって一緒に活動していきたいなと思います。しかし、それをどうすれば上手く実現できるのかを悩んでいます。岩村田小学校にコミュニティースクールルームがあればいいなと思います。

また、佐久市にある地域の文化財の保存活動をしています。SDGsや防災活動にもつながるのでないかと思います。例えば、災害時飲み水は支援物資として届くが、トイレを流すための水は届かないので、井戸水は非常に重要です。井戸は文化財であるが、これからも活用できるものだと思います。

事務局：

質問等ございますか。

委員：

防災活動には、若い世代の方々は参加されたりするのでしょうか。また、防災訓練は、具体的に何をするのでしょうか。

委員：

コロナウイルス感染症拡大以前は、アルファ化米の炊き出し練習や救急救護

の練習を行っていました。区長さんに無理やり出てきてもらうような雰囲気、内容を工夫せねばならないと感じていました。

しかし、台風19号の際には、地域の繋がりを感しました。私が住んでいる地区の班長さんは、一軒一軒見回りしてくださり、班長さんの頑張りを知った区長さんが、公会場を避難所として開けてくださいました。普段から様々な社会教育活動が開催されていて、実は地域の繋がりにあることに気づきました。日頃の地域の公民館活動が、災害時、生きてくる部分もあると思います。防災活動は、そういった観点から、力を入れていきたいです。

委員：

市民活動サポートセンターで関わっているNPO法人が、佐久市の災害箇所を視察し、消防団と区長さんからヒアリングをし、被災箇所マップを作り、地域住民に共有するという活動をしています。また、私は高校に外部サポーターとして出入りしておりますが、探求の授業において、防災活動に興味がある学生もいます。学生たちが地区の方々とつながる機会にもなるかと思っています。

事務局：

どういったきっかけで高校の外部サポーターになったのですか。

委員：

野沢北高校が、「未来の学校」という事業で、県下6つの学校の一つに選ばれ、その中でSDGsを切り口とした探究活動を授業で行っています。市民活動サポートセンターでは、学生の興味と合致する活動をしている団体、課題を抱えている地域とやる気のある学生をつなげていくという役割をコーディネーターとして担っています。

---

委員：

補導委員として6月から、地域の見回り、補導活動に参加しています。子どもや青年に話しかけると、それぞれ色々な話をしてくれて、補導委員をやっているおかげで、人とのつながりができ始めたかなと思っています。

普段土日は、赤十字ボランティアとして県内外の災害現場へ出かけています。災害現場でも人とのつながりが求められています。色々な人と関わりながら社会を形成していくということを2年間の中で、社会教育の面から考えていければと思っています。

---

委員：

佐久市市民活動サポートセンターでコーディネーターをしております。

現在の活動ということで、所属先で関わっている活動を紹介します。

佐久市は今移住者人口が増えており、テレワーカーやリモートワーカーの方々が佐久市に住み始めています。先日オンライン講座を通じて、公民館活動をされているシニア世代の方たちと移住者の方たちの交流をサポートさせていただきました。

また、SDGsに興味がある学生を各活動団体に紹介し、古い建物をリノベーションし、学童保育所を作る活動や被災地区のごみ拾い活動を協力して行いました。

先週は環境政策課から、「岩村田地区に特定外来植物が生えているのだが、何とか学校や地域を巻き込んで対応できないか」との相談を受けたので、学校側に実行委員会を設置してはどうかと提案し、運営のすべてを学生にまかせたところ45人ほど参加者が集まり、国道沿いの外来種の駆除をしていました。参加した2・3年生にボランティアをしたことがあるかと尋ねたところ、経験がある人はほとんどいませんでしたが、今回の活動を今後どうしたいかと聞くと、「すごく楽しかったし、もう一度やりたい。できれば後輩につなげたい。」と答えてくれました。この活動例から、活動の主体を学生に任せるかたちで、団体の継続や次世代の担い手を育てていくことが有効だと感じました。

また、旧大沢小学校保存会と子育て支援団体「ゆるり運動会」のコラボ事業にも携わっています。旧大沢小学校を活用して欲しいという相談を旧大沢小学校保存会から受け、子育て世代や移住者を見学に連れて行ったところ、「佐久の方言丸出しラジオ体操」を作ってみようという企画が持ち上がり、8月の保護者会にてお披露目の予定です。

活動における課題ですが、行政と民間（カンミン）あるいは民間と民間（ミンミン）といった、他機関との連携協働には、意識共有や情報共有に非常に手間と時間がかかります。

また、防災意識や情報共有の格差も感じます。必要な情報を届けたい人へ届けられていないと感じます。

---

委員：

佐久市文化振興推進企画委員を務めて8年目になります。コスモホールや交流センターなどのホールに音楽家を呼んでのコンサート等の企画に対し助言をしています。個人的には、バレエスタジオを経営しております。3歳から70代まで幅広い年代の生徒さんと毎日触れ合っています。

佐久市に住んでおりますが、佐久市にはどんな魅力があるのか、佐久市の自慢できるところを自分自身知りたいと日頃から思っています。佐久市には、さまざまな技術や知識を持っている方が多くいらっしゃるので、そうした技術や知識を伝える会があればいいなと思います。

また、こういう会議ですと、若い方の声がなかなか聴けないので、若い年代の方達が、何を考えているのか、何に困っているのかを討論できる会議が必要だといつも思っています。

---

委員：

まず、文化活動は、佐久市文化事業団評議員として、活動の協力、提案などをしております。スポーツ活動は、NPO法人佐久市体育協会の常務理事として広報の作成、会員の取りまとめなどをしております。公民館活動では、公民館の役割や課題を検討し、市民活動の支援をしています。佐久市人権同和教育活動では、人権に関わる諸問題の検討と対策、人権教育の推進について協議しています。ボランティア活動としては、児童生徒の通学時見守りを毎日続けて10年になります。また、地域の高齢者世帯の方の見守りと安否確認、相談、支援を続け約18年になります。地域のつながりが大事だということを実感しております。

活動の課題としては、コロナウイルス感染症拡大の関係もあり、高齢者の方々が外に出る機会がありません。外へ出たくとも移動手段がないので、同行者が必要です。また、悩みを抱えている若者や高齢者の支援や自殺対策が更に必要ではないかと思えます。

最近、多様性という言葉をよく耳にしますが、「これが一般的だよ。これが今まで通りだよ。」という振る舞いは、果たして本当に多様性を理解できているのかと疑問に感じます。色々な方がそれぞれの分野で活躍できることが一番良いと思います。

---

委員：

現在はスクールサポートスタッフとして望月小学校に勤めています。併せて、

コミュニティースクールのコーディネーターを務めており、地域と学校を繋ぐ役割を担っていますが、学校が欲しい人材をどう見つけていくか苦労しています。公民館事業や学習活動をしている人たちと学校を結び付けたいと考えており、そういった活動に興味をもっています。

先日、生涯学習推進センター主催の講座に参加し、GIGAスクールによる弊害や情報モラル教育について学び、大変感化されました。実際、学校現場でもタブレットの使用が始まっています。これから情報の供給量はどんどん増えますし、インターネット社会におけるトラブル回避能力を養う必要があるかと思えます。また、そういった指導は人権教育にもつながると思えますので、佐久市の対応も注目しているところです。

活動における課題についてですが、スポーツ活動をするNPO法人望月総合型クラブでマネージャーを務めていますが、運営スタッフの高齢化が進んでいます。若い人たちへ世代交代して引き継いでいけるのか、あるいは、現代に合った方法で新しく立ち上げるべきか悩んでいます。一方で、これまで利用していた年配の方々が今後も参加しやすいように、とも考えています。

また、行政との連携がうまく取れない場合があります。例えば公民館の職員や学校の先生など、行政側の人事異動などで担当者が変わると、一からまた関係づくりを始めねばなりません。人事異動の度に、同じことが繰り返され、そこで一度活動がストップしてしまいます。その際に活動を止めず、継続できるようなシステムづくりをせねばならないと感じています。

---

委員：

普段は浅間会館にて、未就学園児向けリトミックを行っています。小さなお子さんとお母さんたちのふれあいの場として、また、保護者の方達のつながりづくりのお手伝いをしたいと思い活動しています。佐久キッズ応援団というグループでは、佐久の伝統を繋いでいけたらいいなと思い、去年から使っていない水田でフナの養殖を始めました。保育園児たちがフナや稚魚を見て、田んぼで遊ぶという経験もなかなかできない貴重な経験ではないかと思えます。

活動における課題ですが、人と接する分野で活動しているので、やはりコロナウイルス感染症の影響は大きいです。一番の弊害は、マスクを着けていることで、表情が見えないということです。お母さんの顔全体からうける印象と、目元だけの印象ではお子さんに与えるイメージがだいぶ違うので、今後には何か影響が出てくるのではないかと危惧しています。

また、最近特にコロナウイルス感染症の影響で、お母さんたちが親子で触れ合

える機会や場所が減っており、お子さんたちが集まれる場所を探している方が多いと感じます。今のお母さんたちは出産してから職場復帰までの期間が短いので、その短い期間にぎゅっと凝縮した支援をしてあげたいと思います。さらに、その後も継続した育ての応援が必要ではないかと思っています。

---

委員：

野沢会館の中にあるチャレンジ教室という、不登校の子どもたちが通う中間教室の指導員を務めております。その傍ら、公民館のグループ活動で、フラワーデザインの講師をしています。人生100年時代で、健康や体、心理的なことに関するカウンセリングに関する活動にも興味があります。

活動における課題としては、フラワーデザインのグループの方の中には、体力や怪我・病気の問題から、参加したくてもできない高齢の方や、育児に手がかかり参加できない子育て世代の方々がいます。人生の楽しみや子育ての息抜きとして、フラワーデザインの活動を本当に必要としている人が参加できない現状があり、日々悩んでいます。

事務局：

質問等ございますか。

委員：

野沢会館が新しくなりますが、チャレンジ教室は今度どうなりますか。

委員：

次の開設場所は未定です。チャレンジ教室自体は継続していきます。

委員：

移転場所について、チャレンジ教室の生徒からは、どんなご要望がありますか。

委員：

子どもたちは、広い場所を希望しています。保護者は送迎しやすい場所を望んでいます。生徒は佐久市中から集まるので、野沢、中込近辺が良いのではないかと考えています。

(3) 委員長・副委員長の選出について

事務局：

佐久市社会教育委員会議運営規則第2条の規定により、委員長・副委員長は、委員の互選により定めることとなっております。委員長・副委員長に立候補、あるいはどなたかを推薦される方はおりますでしょうか。

委員：

中澤委員を推薦します。

事務局：

中澤委員を委員長に推薦がありました。  
では、副委員長に立候補、あるいはどなたかを推薦される方はおりますでしょうか。

委員：

柳澤委員を推薦します。

事務局：

柳澤委員を副委員長に推薦がありました。他にありますか。

それでは、委員長・副委員長の就任についてお諮りします。委員長は中澤委員ということで承認いただける方は挙手をお願いします。

(全員挙手)

副委員長は柳澤委員ということで承認いただける方は挙手をお願いします。

(全員挙手)

全員ご承認いただけるということで、ありがとうございます。  
それでは、委員長、副委員長からそれぞれ一言ずつをお願いします。

委員長：

誰もが発言できる会議にしていきたいと思えます。

副委員長：

これまでと比べ、社会教育委員の活動に変化があり驚いています。若い皆さんのご活躍を期待しつつ、また、委員長の手助けができるといいなと思います。

#### (4) 社会教育委員だより「そよかぜ」第6号について

事務局：

そよかぜ第6号の原稿と編集後記についてご案内します。今回の社会教育委員会議より、新たな2年の任期が始まりましたので、次回発行のそよかぜ第6号は、委員の皆様全員に自己紹介と社会教育委員としての抱負などを書いていただきたいと考えています。編集後記は、事務局の方で書かせていただきます。

委員：

これはどこへ掲載し、対象は誰に向けているものですか。

事務局：

佐久市民の方々に向けたものです。紙媒体で発行しておりまして、設置場所は、市役所本庁、南棟、各支所、また、社会教育施設として、図書館、公民館です。

委員：

連携や協働という意識醸成のための媒体ですか。

事務局：

社会教育委員の活動の見える化を図るものです。佐久市社会教育委員としての抱負や、取り組みたい課題について書いていただきたいです。

#### (5) 第3回 佐久市社会教育委員会議の開催について

事務局：

佐久市の社会教育施設でも、関わりがないと行ったことがない施設等もあるかと思しますので、第3回の会議は社会教育施設の見学を行いたいと考えております。また、第4回の会議開催は11月中旬を予定しています。

## 4 閉会